

決算審査特別委員会

第55号議案・平成18年度一般会計、特別会計及び企業会計の決算の認定については、定例会第2日（9月6日）の本会議において質疑が行われた後、議長及び監査委員（議会選出）を除く全議員で構成する決算審査特別委員会が設置され、審査が付託されました。

同委員会（委員長 山谷 清、副委員長 大町栄信）は、9月11日及び12日の2日間にわたる審査の結果、反対及び賛成の討論があり、表決の結果、賛成多数で認定しました。審査の中で論議された主な点は次のとおりです。

一般会計

〔質疑〕各地区の自治会等における自主防災組織の平成18年度状況と、組織育成の取り組みの概要について伺いたい。

また、大地震などが起きたときに、被災地には全国各地からボランティアが駆けつけることが予想されるが、当市の受け入れ態勢はどのようになっているのか伺いたい。

※平成19年9月末現在 49自治会、48組織になりました。

〔質疑〕納税奨励事業として納税貯蓄組合の育成、充実に図っているが、どのぐらいの収納率を上げたか伺いたい。

〔答弁〕納税組合には4つの税目（市・県民税、国民健康保険税、固定資産税、軽自動車税）についてお願いをしており、市の平成18年度の収納率の平均が94%であるのに対して、同組合の収納率は94.9%である。

〔答弁〕自主防災組織は、平成18年度末で※26自治会で25の組織をつくっている。自主防災組織に対しては、設立時における資機材の購入のために補助金をそれぞれの自治会に交付するとともにリーダーの研修会を実施している。

ボランティアの受け入れは、社会福祉協議会が中心となっており、事務的なものを詰めているところである。

また、納税貯蓄組合には、奨励補助金を支出しているが、市の平均収納率に達しない納税組合については、平成19年度からその交付率を下げている。

〔質疑〕市民バスについて、運行時間等の改正により、小中学校の通学に利用しやすくなると思うが、これらを検討しているか伺いたい。

また、スピードを出して運転しているようだとか、カーブのときもあまり減速しないで運行しているという声があるが、安全運行についてどのように取り組んでいるか伺いたい。

〔答弁〕市民バスの使いやすさ、ダイヤの設定については、限られた台数で運行しているため、時間を高校生に合わせてれば小学生には遅い時間となり、小学生に合わせれば高校生にとっては早過ぎる時間となってしまふ。どちらにも直接合うような時間を設定するのは困難だったが、昨年、大鷹沢三沢・大張方面を運行する大張線において、最終便のダイヤで調整した。

〔質疑〕誕生祝い金事業について、税金等を納めていない方に贈呈しないことは理解できない。

子どもを産む方は当然若い方が多く、あまり資産も持っていないことから、本当に苦しくて払えない方もおられるとも思われる。については、贈呈要件から「市税等の完納」を撤廃すべきではないか。

〔答弁〕税金は、納めていただけではじめて公平になる。このような観点から、サービスの給付を制限することは、誕生祝い金以外にも行っている。

税金として納めていただいたお金の中から、市民みんなでお祝いするという趣旨であり、納めた方からみて不満が出れば、それは公平ではなくなるので、当面この要件は継続して行きたいと考えている。